

～豊かな人権意識を育む～ 小学校・中学校の人権学習を紹介します

問 人権・同和教育課人権・同和教育係 ☎72-2111

小・中学校の人権学習では、子どもたちや教職員自身が偏見や差別に対して「おかしい」と気づき、行動できるような感性を育てています。社会をより良くしていく仲間の一人となれる学びの取組を紹介します。

小学校高学年の取組

大刀洗空襲フィールドワーク ～身近な戦争の爪痕に実際に触れて～

小学5年生では大刀洗空襲を、6年生では長崎の修学旅行で原爆の恐ろしさを学び、それぞれの授業で平和について考えます。事前学習として、平和を語り継ぐ取組をしている人に話を聞きます。そしてフィールドワークを行い、自分が住んでいる小都市をはじめ、大刀洗町など身近な所でも戦争の爪痕が残っているということを実際に自分で見つめます。学んだことを平和集会や生活発表会で発表し、保護者や地域の人に啓発をしています。

戦争の恐ろしさが感じられる今だからこそ、子どもたちは全学年で「戦争によって起こる酷い人権侵害」「平和の大切さ」を学び、考えを深めています。



立石校区にある「立石平和の碑」



事前学習の様子

中学校の取組

全国統一応募用紙(履歴書)の取組

全国統一応募用紙(履歴書)の取組は、被差別部落の生徒をはじめ、社会的に不利な状況に置かれた生徒への就職差別をなくす人権運動です。以前、各企業で使われていた「社用紙」と統一応募用紙を比べながら学習します。

公正な採用選考を求める人々の思いから統一応募用紙が制定され、改正が重ねられてきました。本人の適性・能力に関係のない家族構成や家庭環境などの不適切な質問に気づき、そのおかしさを考えています。



現在の履歴書(一部抜粋)

子どもたちの声



- 社用紙をこの学習で初めて見ました。現在の形になるまで多くの方が努力してくれたんだなと感心しました。「就職と関係ないことで決められるのは悲しいな」と思うので、改善されて良かったです。
- 今まで「これっておかしいんじゃない」と思うことはあったけれど、行動まで起こすことはできませんでした。この学習では、行動を起こせば世の中が変わるということが分かりました。